愛知

愛知地方協力本部と名古屋地区家族会が懇談
女性自衛官の活躍と制度施策を紹介

愛知地方協力本部は6月16日、名古屋市守山区で実施された名古屋地区家族会会員との懇談会に参加しました。

この懇談会は、以前から名古屋地区家族会会長から要望のあった事項であり、少人数での参加ということから、特にテーマを決めずに会員の方々が疑問に思っておられる防衛省・自衛隊に関するさまざまなことに関して、地本からお話しさせていただくという形式で行われました。

当日は、愛知地本から副本部長（松下陽子防衛事務官）が参加し、名古屋地区家族会からは会長のほか4人の会員が参加されました。

女性自衛官の活躍についての関心が高く「子供を持つ女性自衛官は活動に制約があるのではないか」といった声が上がったことから、副本部長が防衛省内部部局において担当した女性自衛官活躍推進のための施策である「災害派遣時等の緊急登庁支援制度」や女性自衛官の中から防衛駐在官を輩出したいという念願の下、制度の成立に奔走した「配偶者同行休業制度」について説明しました。

特に緊急登庁支援制度については、参加された会員の中に保育士の方がおられ、部隊の緊急登庁支援訓練に協力した際に、部隊で子供を預かる際の注意点（食物アレルギー、風呂、部屋の安全性等）を説明したことなどを話され、大いに議論が深まりました。

このほか、予備自衛官の話から任期制自衛官退職時進学支援給付金制度について説明したところ、あまり知られていなかった制度のようで会員の方々は大変驚かれ、防衛省・自衛隊がさまざまな取り組みを行っていることをより深く理解していただきました。

最後に、会員の方々から、今後もこのような集まりを持ちたいという要望が出され「防衛省・自衛隊についてもっと知りたい」「自分たちは防衛省・自衛隊のもっとも身近な存在である」と強く思っておられることを改めて知ることができ、短い時間ではありましたが充実した時間となりました。

愛知地本と名古屋地区家族会会員との懇談

福島

第1回即応予備自衛官雇用企業研修を実施
即応予備自衛官との就業両立に一助

福島地方協力本部は6月14日、会津若松市にある会津パッケージ株式会社の協力の下、第1回即応予備自衛官雇用企業研修を実施しました。

この研修は、福島駐屯地の任期制退職予定隊員などを対象に、企業への再就職と即応予備自衛官の両立における不安を払拭し、即応予備自衛官への志願を促進することを目的として毎年複数回行われています。

14人の隊員が参加した研修では、会津パッケージ株式会社の主要事業である段ボールの歴史や設計・製造の説明を受け、また、簡単な就業体験を行いました。

また、同社の社員であり即応予備自衛官でもある方たちとの懇談では「訓練出頭について企業の理解はあるのか」「なぜ予備自衛官ではなく即応予備自衛官を選んだのか」といった本音の話し合いが行われ、就業と即応予備自衛官の両立に関する不安を解消する助けとなりました。

研修終了後、参加者からは「訓練に出頭する際の勤務調整や職場の雰囲気を感じ取ることができた」「即応予備自衛官との懇談ができ、今後の即応予備自衛官への志願について非常に参考になった」といった前向きな意見が多く寄せられました。

このような研修が、退職予定の隊員たちが自衛隊と就業を両立する上での不安を解消し、新たな志願者の増加につながることを期待しています。

工場を見学する退職予定隊員

福島

1泊2日の防災・減災合宿を支援
自助や共助の重要性を体験し学ぶ

福島地方協力本部会津若松出張所は6月1日と2日の両日、国立磐梯青少年交流の家（猪苗代町）で行われた「猪苗代高等学校防災・減災合宿」を支援しました。

この合宿は、猪苗代高等学校が毎年開催しているイベントで、東日本大震災の記憶を風化させないことを目的とし、防災・減災について、生徒たちが自助や共助の重要性を体験し学ぶことを主眼にしています。

初日は、ロープワークや段ボールベットの作成、野外での炊飯などが行われました。自身が考えることを重視し、指導は基本的なことのみで、生徒たちは学んだことを駆使し、苦しみながらも、一生懸命に取り組んでいました。

特に、野外での炊飯では、多くの生徒が初めての経験だったため、点火に戸惑うなど、その難しさを実感していましたが、広報官のサポートを受けながら炊飯について学んでいました。

翌日は、災害発生時に設置される避難所の運営をゲーム感覚で体験する「避難所運営ゲーム（HUG）」が行われました。発災後にさまざまな状況が発生する中で、避難所の運営に行き詰まるチームもあり、その難しさを体感していました。

最後に、広報官によるHUGの展示が行われ、統率のとれた行動に触れることができました。

参加者からは「最初に役割を設定することが重要だと感じた」「個人がチームの一員として団結して行動しているところがすごかった」などの意見が寄せられ、防災・減災合宿は盛り上がりを見せていました。

避難所運営ゲームを展示する広報官

Going! PCO

岩手

即応予備自衛官としての災害派遣

第38普通科連隊　即応予備3等陸曹　浜田　憲弥

私は自衛隊を退職後、即応予備自衛官となり、現在は日本通運株式会社で働いています。

東日本大震災から12年が経ち、私は即応予備自衛官として災害派遣活動に参加した経験をお話しすることで、この貴重な経験を風化させないよう、今回投稿させていただきました。

震災が発生した時、私は家にいました。地震の揺れは過去に経験のない大きさで、恐怖を感じました。ライフラインは途絶え、スーパーやガソリンスタンドも機能しなかったため、生活用品の不足に困惑しました。自衛隊での経験により食料などの備蓄があり、最低限の生活はできましたが、家族と連絡が取れず不安な日々が続きました。

職場にも連絡がつかず、翌日出社して車両の電源でパソコンを起動して、震災前に入っていた仕事を確認し、現場に向かう準備を急いで行いました。

物流を止めるわけにはいかないため、連絡がつかないお客さまの元へ受け入れ・引き取りが可能か不明のままお伺いし、震災の翌日から引越作業を行いました。

数日後、携帯電話が使えるようになり、岩手地方協力本部に連絡しました。

その後、即応予備自衛官として初めて災害派遣の招集がかかりました。職場には快く送り出してもらい、4月末から1週間従事しました。ただ心残りだったのは、当時婚約者だった妻をアパートに一人残したことでした。

私の任務は、陸前高田市の学校の体育館での捜索活動でした。遠野市のスキー場を拠点にして、毎日被災地と拠点を車両で往復しました。道なき道を進む車両に揺られ着いた先は瓦礫で埋まった体育館、水浸しの家具、天井に引っかかったランドセルなどが目に入り、言葉にできない感情が湧きあがりました。体力面ではなくメンタルを保つのに日々必死でした。

災害派遣に出動し、一番は備えることの大切さ、防ぎきれない天災の恐ろしさ、それでも行動できる組織の重要性を知りました。私はそこで役に立てたことを誇りに思い、日々の勤務に励んでいます。また、有事の際、即応できる物心両面の準備が毎日の心にゆとりをもたらしてくれるものと確信しております。

浜田即応予備３曹

熊本

新隊員の保護者が総合訓練を見学
自衛官としてのわが子の成長に感動

熊本地方協力本部は6月7日、新隊員の保護者を対象に、第42即応機動連隊新隊員総合訓練の見学を行いました。この見学は、新隊員のフォロー施策の一環として、第42即応機動連隊新隊員教育隊の協力を得て実施されました。

参加した保護者たちは「うちの子は大丈夫かな」「どれだけ成長したのかな」という不安と楽しみが入り混じった表情を浮かべて出発しました。

当日は曇り空で、時折吹く風が心地よい見学日和でしたが、前日の雨でぬかるんだ訓練場で泥だらけになって訓練を行う新隊員にとっては、教育期間最終行程における最大の試練となりました。

総合訓練では、分隊を2つの班に分けて陣地を攻めるという想定で行われ、保護者は追いかける形で見学しました。新隊員たちは築くべきチームワークを発揮し、訓練場に設置されたさまざまな障害物を活用しながら前進し、大きな掛け声とともに敵陣地に突撃していく姿に、保護者たちは感動を隠せませんでした。

訓練が終わった後、泥と汗まみれの新隊員たちの表情は、過酷な総合訓練の厳しさとそれに打ち勝った達成感に包まれ、晴れやかな笑顔になりました。保護者たちは「自衛官候補生の始業式ではまだまだ子供の顔つきだったわが子が、今日見た時は『自衛官』の顔つきになっていた」「自分の子があんなに大きな声を出せるのかと驚いた。今度帰った時には元気が出る料理を用意してあげよう」と、子供の成長に感動している様子でした。

総合訓練中の新隊員

静岡

令和5年度自衛隊統合防災演習に参加
情報共有や連携の重要性を実感

静岡地方協力本部は6月26日から30日の間、静岡県庁（静岡市）などで行われた令和5年度自衛隊統合防災演習（05JXR）に参加しました。

今年度は、午前9時に日向灘を震源とするマグニチュード9・1の巨大地震が発生、静岡県西部でも震度7を観測したとの想定で統合防災演習を開始しました。

静岡地本は地震発生の連絡を受けるとすぐに、本部長、連絡員（LO）および総務課の担当隊員合わせて5人が県庁に向かいました。

地本本部庁舎では、会議室にパソコン、ホワイトボードや地図などを配置して指揮所を開設。次々と情報が飛び込んでくる中、隊員がパソコンやホワイトボードで現況を整理し、逐一県庁や部隊に伝えました。

また、東部・中部・西部・賀茂地域にある募集事務所の隊員は各地域の拠点となる危機管理局に向かい、併せて道中で確認できた被害状況などを指揮所に報告しました。

県庁では、地本の隊員が自衛隊と県の架け橋として、県庁と調整しつつ、本部指揮所、部隊などと連絡を取り合い、また、静岡県を含む1都10県を担当する東部方面隊（東京都練馬区）および静岡県の災害派遣を担任する第34普通科連隊（御殿場市）の隊員が到着するなり速やかに情報の共有を図っていました。

今回、演習に参加した隊員は「多くの情報の中から部隊が何を求めているのか、焦点を当てた情報収集ができた。しかしながら、建物の構造や通信手段など専門的な知識がないと対応できないものもあり、自衛隊だけでなく多くの人が連携して臨むことの大切さを実感した。今回の経験をほかの隊員にも伝え、今後に生かしていきたい」と語っていました。

県職員と情報共有する地本隊員

愛知

令和5年度予備自衛官補採用行事
63人が参加し訓練への意欲を高める

愛知地方協力本部は7月2日、陸上自衛隊守山駐屯地において、令和5年7月1日付で採用された愛知県在住の予備自衛官補144人のうち63人（一般43人、技能20人）が参加して、令和5年度予備自衛官補採用行事を実施しました。

最初に教育訓練出頭要領などについて地本担当者から詳細な説明が行われました。

その後、令和3年度に予備自衛官補から予備自衛官に任用された木野村1等陸士から、予備自衛官補になった経緯や家庭と仕事、訓練の両立には家族などのサポートが必要不可欠であること、および教育招集訓練時の自身の体験談が語られました。

予備自衛官補たちはメモをとりながら真剣な面持ちで聴講していました。

辞令書交付式では、まず代表である伊東予備自衛官補（技能）の宣誓文読み上げに続いて予備自衛官補一同で力強く宣誓しました。

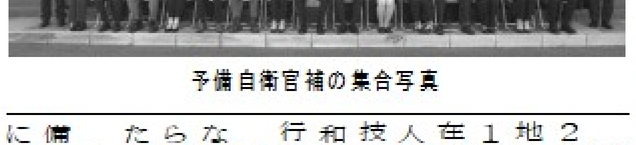
引き続き、安井本部長が予備自衛官補一人一人に辞令書を手渡しました。

本部長は訓示の中で「予備自衛官補の訓練はさまざまな立場の方々と出会える機会でもあるため、同期となる予備自衛官補と交流を図り、防衛基盤の一翼を担う立場になるという自覚を持って訓練に勤しみ、ぜひ将来は予備自衛官になってもらいたい」と激励しました。

採用行事終了後、予備自衛官補たちは、担当広報官らと共に隊員食堂で昼食をとり、軽装甲機動車や炊事車などの自衛隊車両の見学や実際に鉄帽や防弾チョッキの着用体験をしました。

最後に新隊員の居室の見学をして営内での生活を身近に感じているようでした。

参加者からは「前年度参加者の意見などが大変参考になりました」「頑張って訓練に参加していきたい」などの感想が聞かれ、これから始まる予備自衛官補としての訓練に全力を尽くし奮闘することを誓っていました。


予備自衛官補の集合写真

熊本

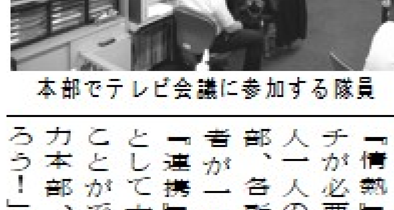
募集活動に向けテレビ会議で戦略を策定
広報官の情熱と組織連携により目標達成を目指す

熊本地方協力本部は6月30日、6月募集会議をテレビ会議により実施しました。

今回の募集会議では、7月1日、高校3年生の募集解禁に向けて本部および広報官一丸となり募集目標達成を目指すため、昨年度の優秀広報官等から広報官としての着意事項の発表や本部長による激励を行いました。

着意事項の発表の中で優秀広報官全員が心がけていることとして、保護者との信頼関係の構築が重要であるとともに自主募集情報やイベントなどで取得した募集対象者情報を逃さない心構えが重要であることを持前のプレゼンテーション能力を発揮して力説していました。

会議の最後に、笹島本部長が、全国地方協力本部長等会議における森下陸上幕僚長訓示を踏まえ「6月までの募集状況を見る限り、今年度も非常に厳しい。各所長、広報官は使命感と情熱をもって募集活動を実施せよ」「募集対象者とその保護者の心を動かすには『情熱』をもったアプローチが必要である。広報官一人一人の力は小さいが、本部、各所、部隊や部外協力者が一丸となり組織的な『連携』を行うことで組織として大きな力を発揮することができる。熊本地方協力本部、一丸となって頑張ろう！」と鼓舞しました。


本部でテレビ会議に参加する隊員

栃木

自衛隊の魅力を体験型説明会でPR
高校生と参加企業の社員なども興味津々

栃木地方協力本部は6月13日、宇都宮市のライトキューブ宇都宮で開催された株式会社ジンジブ主催の「おしごとフェア」に参加しました。

「おしごとフェア」は、県内の高校生を対象に、企業などが仕事内容を説明し、一部の仕事を体験させるイベントです。

栃木地本としては、募集解禁前の高校生に対し職業として自衛隊の魅力をPRすることで、働くイメージの向上を図る体験型の説明会となります。

今回は、東部方面特科連隊第2大隊（宇都宮）から人員や装備品の支援を受け、より効果的な仕事体験を実施することができるよう準備しました。当日、会場では自衛隊ブースの装飾に工夫を凝らし、他の企業とは異なる自衛隊らしい「空間」を演出しました。

興味を引いてもらうための仕事体験として、制服や迷彩服の試着、野外電話機の操作、救急法の実践、暗視眼鏡の試用体験などを行いました。

高校生たちは初めての自衛隊の仕事に楽しみながら参加し「暗くても文字が見えた！」などといった感想を述べ、仕事に触れる機会を楽しんでいました。

栃木地本は体験に重点を置いて集客し「多数が支持する物事に対し、より支持が高くなる」というバンドワゴン効果によって来場者を増やす手法を用いました。

来場者に体験を楽しんでいただいた後、募集班長が自衛隊の概要を説明しました。説明内容にも一般的にはあまり知られていないであろう内容を散りばめ、「自衛隊は宇宙も守っている」「自衛隊には自パイもある」といったことを説明すると、来場者たちは驚きや興味を示していました。

参加生徒総数118人のうち、約4割にあたる44人が自衛隊ブースを訪れ、自衛隊の仕事の一部を体験しました。

また、高校生だけでなく、参加企業の社員やフェアのスタッフも自衛隊の仕事体験に興味を示し、制服の試着や野外電話機の操作などを楽しんでいました。

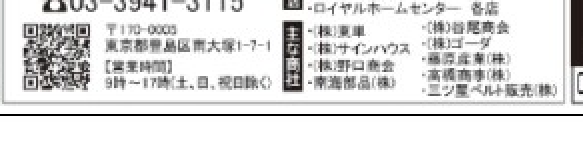
暗視眼鏡を試用体験する高校生

浜名湖うなぎ一筋50年。浜名湖で唯一の養鰻漁協から直送。
浜名湖うなぎ
極上の味をご家庭で
❶長蒲焼（真空パック）2枚 6,600円 3枚 9,200円 4枚 11,700円
❷長蒲焼 2枚 6,400円 3枚 8,900円 ※税込・送料込
浜名湖養魚漁業協同組合
0120-398-075 https://www.maruhama.or.jp
〒431-0203 静岡県浜松市西区馬郡町2465 FAX.053-596-1179

与謝野町 誠武農園 WEB STORE 京都 丹後
安全・安心 美味しく食べて 幸せ、元気に！
京の豆っこ米 5kg ¥3,780
にんにく万能ダレ 醤油 ¥972
ご購入はコチラ
たべる小松菜ドレッシング ¥864
京都産 乾燥にんじん 20g ¥248
京都産 乾燥九条ねぎ 5g ¥216
※価格は税込・送料別
https://store.seibunouen.com 0772-43-2319
有限会社 誠武農園 〒629-2422 京都府与謝郡与謝野町字滝3074 FAX.0772-43-2320

株式会社 三浦製菓
急須もなか
「急須」をかたちどった可愛らしい最中。おやつや贈答用にもおすすめです。
3種類の味 小倉餡 お茶餡 川根の塩（手亡餡）
【単品】167円 8個入り 1,548円 ※税込・送料別
★秋から価格が変わります。最新の情報は右のQRコードからご確認ください。
お茶羊羹
箱入りもあります
川根茶を粉末にし、羊羹に練り込みました。
3個421円 5個702円
0547-53-2073 https://chayoukan.com
〒428-0104 静岡県島田市川根町家山717-6 FAX.0547-53-4144

フラダンス衣装とハワイアン雑貨の通販サイト
たくさんの商品が揃っています。
デイリーエコバッグ ワイドサイズ マチ付き 折りたたみ 4柄 1,870円
バイピングエコバッグ ショッピングバッグ 4柄 2,200円
★ふちどりがカワイイ バイピング仕様
★大きいお弁当もすっぽり入ります
ご注文時【おやばとを見た】で全品10%OFF
PāʻūSkirtShop パウスカートショップ
〒957-0018 新潟県新発田市緑町2丁目4-24 0254-22-6127


鉄製燃料タンクのサビとりと防サビ
花咲かG タンククリーナー 5,500円（税込み）
使用例
株式会社 栄技研 ☎03-3941-3115
〒170-0005 東京都豊島区南大塚1-7-1
【営業時間】9時～17時（土、日、祝日除く）
主な販売店 ・全国のホンダ二輪販売店 ・全国のヤマハ二輪販売店 ・エンバイヤ自動車（株） ・ハンズ 各店 ・ロイヤルホームセンター 各店
主な商社 ・（株）東単 ・（株）サインハウス ・（株）野口商会 ・南海部品（株） ・（株）谷尾商会 ・（株）ゴーダ ・藤原産業（株） ・高橋商事（株） ・三ツ星ベルト販売（株）

コーチ契約
心を整える
アンガーマネジメント 心の体質改善
おやばと読者限定！特別価格はコチラ
サービス提供内容
・課題抽出 ・面談（月2回/1時間）
・目標設定 ・電話/メール相談随時可
・進捗確認 ・月額 22,000円（税込）
※アレンジ可能！まずはご相談ください！
日本アンガーマネジメント協会認定 アンガーマネジメントコンサルタント® officeTIDA 代表 川田 裕輔
070-6482-3889 kawata.yusuke@outlook.jp https://officetida.com/